

プロへの夢諦めず

和歌山箕島球友会

進め！ドームへ

都市対抗予選を前に

—下—

働きながら野球打ち込む

和歌山箕島球友会（有田市）では、甲子園で活躍したかつての球児やプロを目指す選手たちが、働きながら野球に打ち込む。

黒川弘勝投手（25）は、チームを支援する地元大手スーパーチェーン「松源」の海南阪井店で、総菜の調理やバック詰め、売り場への陳列などに汗を流す。



総菜を並べる、仕事中の黒川投手

—海南市で



練習でキャッチボールをする黒川投手—有田市で

黒川投手 家族が心の支え

6時前に出社。午後4時頃まで働き、午後5時半から8時まで合同練習、さらにそれから約1時間の自主練習をするのが、いつものパターン。自分の時間はほとんどなく、体力的にもきつい。それでも「試合の日などは仕事を休ませてもらうこともある。だからこそ普段の仕事はしっかりとやりたい」と話す。

家事は妻の斎代さん（25）に「任せっきり」だが、8カ月の長男、海都ちゃんの育児は協力し合っている。「子どもをお風呂に入れて、いる時が一番ほっとする時間」。試合があると一緒にスタンドに来てくれる。「家族が何より支え。2人がいるから頑張れる」

【竹田迅岐】